

懐かしき さぬき荘でのアルバイト

昭和62年卒 香川大学 植田和也

香川大学教育学部に入学したのは昭和58年4月、社会科研究室に所属しました。いろいろと逞しく個性の強い先輩や後輩に囲まれ、それはそれは楽しい4年間を過ごすことができました。ですが、研究室活動にはあまり貢献できなかったと反省しております。

とにかく大学時代といえば、アルバイトに時間を費やした記憶が蘇ります。ただ、多様なアルバイトを通して、社会の厳しさや対応力、人間関係など多くのことを学ばせていただきました。

そのなかでも、社会科研究室として伝統的に先輩から引き継ぐアルバイトがありました。それはKKR（国家公務員宿舎）さぬき荘のフロントのアルバイトです。同年代の研究室の男性の多くが関わったと思われます。電話の対応、宴会場や会議室の準備や片づけ、フロントでの受付など、懐かしいものです。午後6時頃から9時ごろまでの担当者と9時過ぎから翌朝までの担当者が引き継ぎながら、任されていたのです。時には酔っぱらいのお客様に辛抱強く対応したり、門限を過ぎても戻ってこられないお客様がいて眠れなかったり、予約が重なり困ったりしたことなど、本当に30年近く前のことですが鮮明に蘇ります。

そのさぬき荘に何とも怖い存在の方がお一人だけ居られました。そう独特な風貌の支配人です。皆から「支配人」と呼ばれ、存在感のある気の優しい方でした。時々事務室におられて、後ろからプレッシャーを与えてくださいました。本当にこのアルバイトを通して多くのことを教えられ学ばせていただきました。

さらに、卒業式の日には、このさぬき荘で社会科研究室の茶話会を催していたことも忘れ難き思い出です。当時、まず角先生の格調高いご挨拶「瀬戸内海の・・・」から始まり、男性の先輩方を後輩が胴上げしていたものです。

それ以外にも、コンサートのアルバイト、家々を回る訪問調査、塾や家庭教師、喫茶店など、多くの経験をすることができたのは、今から思うと大変貴重なことでありました。

しかし、その分レポートや試験対策に費やす時間は少なかったと・・・恥ずかしい限りであります。卒業論文に際して、富士田先生には大変お世話になりました。その後も先生にはいろいろとご指導をいただき、京都での穴場観光案内までもしてくださりました。



「さぬき荘での胴上げ」

本当に研究室の先生方、同期の皆様、先輩・後輩の皆様、有難うございました。

こんな私ですが、昨年度から香川大学教育学部附属教育実践総合センターに勤務することになり、少しでも学生や松楠会の皆様のお役に立つよう頑張っていきたいと思います。大学への恩返しもしたいと強く感じています。